

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

聖マリアンナ医科大学病院乳腺・内分泌外科での研修を終えて

金沢大学附属病院乳腺外科

寺川 裕史

日本臨床外科学会国内外科研修プログラムにより、令和4年10月24日から11月4の2週間、聖マリアンナ医科大学病院乳腺・内分泌外科にて乳腺外科研修をさせていただきました。このような貴重な機会をあたえてくださいました、日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長に深く御礼申し上げます。そして、今回の研修にあたり快く受け入れてくださいました、聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科主任教授の津川浩一郎先生、医局長の本吉愛先生をはじめとした諸先生方、スタッフの皆様には心から感謝申し上げます。

私は、2008年に金沢大学を卒業後、2010年に金沢大学旧第2外科へ入局致しました。現在、卒後15年目になります。入局後は主に消化器外科の研鑽を積んでおりました。関連病院で乳腺診療に携わることはありましたが、乳腺を専門としているわけではありませんでした。縁があり、数年前から少しずつ乳腺診療に従事する割合が増え、2022年4月に金沢大学附属病院乳腺外科の診療科長を拝命致しました。医師15年目ではありますが、乳腺診療としての歴が浅く、日々の診療、院内の会議、書類処理などの業務に追われ、診療科長としての力不足を痛感する日々でした。そのような時、今回国内研修の機会を頂きました。

聖マリアンナ医科大学病院は、乳癌診療実績は全国でも有数、関連施設としてプレスト&イメージング先端医療センターがあり、連携して乳腺・甲状腺診療を行っておられます。その実績はもちろん、津川教授や本吉医局長、プレスト&イメージング先端医療センターの福田 護院長など金沢大学にゆかりがある先生が多くおられたこともあり、聖マリアンナ医科大学病院で研修を希望致しました。

研修期間中、大学病院での外来見学、手術・カンファレンスへの参加、遺伝診療外来の見学をさせて頂きました。その他、Webミーティングにも参加させて頂きました。さらには、関連施設であるプレスト&イメージング先端医療センターや応用分子腫瘍学教室も案内して頂きました。

まずカンファレンスにおいては、その症例数の多さに圧倒されました。若手の先生が多く、また学生実習生もおり、とても活気があり良い雰囲気であることが印象的でした。診療においては積極的に意見交換をし、チームとして診療にあたっておられました。

手術は様々な先生と一緒にさせて頂きました。皮膚切開の位置・方法、迅速診断の出し方、術野展開の方法、皮弁の厚さ、閉創の方法など、これまで当院で行ってきた方法とは異なる手技を実際にみることができ、とても参考になりました。教科書だけでは学ぶことができない細かなコツ、手術に対する考え方を様々な先生から教えて頂いたことは、大きな財産となりました。

遺伝診療外来の見学やWebミーティングにおいては、遺伝診療の進歩、今後の必要性を強く感じました。これまで私自身、遺伝診療分野は遺伝専門医や腫瘍内科医に任せてしまっていたため、今後、自身でも勉強し資格取得も目指したいと思いました。

プレスト&イメージング先端医療センターは乳癌診療には欠かせない画像診断部門を併設した、日本初のプレスト&イメージングセンターです。乳腺外科・放射線科・腫瘍内科医・乳癌看護師などの専門医療スタッフにより患者さんを中心としたチーム医療を実施し、また大学附属の施設として診療連携を円滑に行っています。施設内は清潔感・安心感があり、医療スタッフと患者さんの導線を分ける工夫が

されていました。このような施設は近隣ではみることがなく、患者さんが増加傾向である乳癌診療において、モデルとなる施設であると感じました。

応用分子腫瘍学教室では太田智彦教授から研究施設の案内、研究への心構えなど教えて頂きました。今後、診療科としての成長を目指すにあたり、研究は必ず必要となってくるため、大きな刺激となりました。

この2週間は私にとって本当に大きな財産となりました。聖マリアンナ医科大学病院の先生方、忙しい診療の中、受け入れて頂き、また丁寧に御指導頂き本当にありがとうございました。優しく穏やかな先生ばかりで、ぜひまた研修に来させて頂きたいと思いました。

最後になりますが、スタッフが少なく診療が忙しい中、私を送り出してくれた金沢大学附属病院のスタッフの方々、本当にありがとうございました。今回の経験を金沢大学附属病院に還元し、さらに診療科として成長していけるよう精進してまいります。